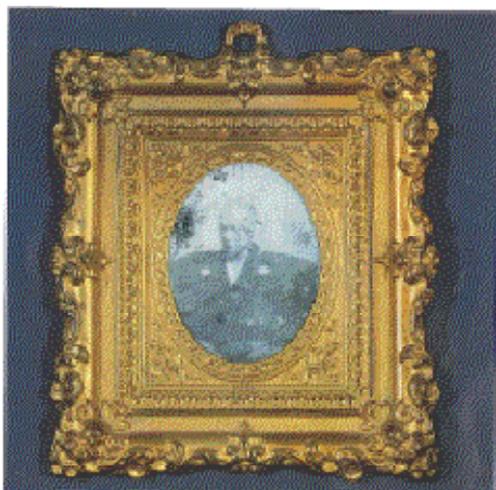


## 銀板写真（島津斉彬像）一枚

【所在地】鹿児島市吉野町 9698 - 1 尚古集成館

【種別】国指定有形文化財（歴史資料）

【指定年月日】平成 11 年 6 月 7 日



銀板写真は、銀面に直接画像を写し込むという最も古いタイプの写真術である。1837年にフランス人ダゲール（Daguerre）が発明し、発明者の名をとってダゲレオタイプともいわれる。よく研磨した銀板にヨウ素蒸気を当てて感光性を持たせ、これをカメラに入れて撮影し水銀蒸気で現像する。一回の撮影で一枚きり、しかも左右が逆に写るという欠点はあるが、銀板上に写し出される画像は鮮明・繊細で、瞬く間に人々を魅了し世界中に広まった。

日本においては、嘉永元（1848）年ころから研究がはじめられ、島津斉彬を中心とする鹿児島藩の研究グループが指導的立場に立っていた。嘉永7年、斉彬が出版させた川本幸民の『遠西奇器述』には撮影方法が詳細に書かれているが、実際の撮影は困難を極め、安政4（1857）年ようやく撮影に成功した。

斉彬の銀板写真は、安政4年9月17日、鶴丸城内で撮影されたもので、画像は薄目ながら、袴を着用した斉彬の像がはっきりと写されている。この写真が撮影されたころ、ヨーロッパでは次の世代の写真術、ガラス板を用いた湿板写真が主流となっており、1860年代には日本でもこれが急速に普及したため、日本の銀板写真の時代は極めて短い。斉彬の写真は、日本人が撮影した現存唯一の銀板写真で、わが国の写真史を語る上で欠かせない資料となっている。